

(27) 以下の通り訂正いたします。

P504 発表者の変更

誤

314) 看護職向けコーチング・コンサルテーション研修の満足度に影響する学習成果と学習活動

○遠藤良仁¹，渡辺幸枝¹，アングアホッフア司寿子¹，
鈴木美代子¹，伊藤 収¹
¹岩手県立大学看護学部

【目的】

看護職による新人看護師等への指導力向上が重要な課題となっている。そこで研究者らは看護職のコーチングおよびコンサルテーション能力の向上を目的とした研修会を開催した。本研究はその研修会の教育成果と学習活動の関連を検討し、効果的な研修会の在り方の示唆を得ることを目的とした。

【方法】

平成28年10月から11月にかけて看護職を対象に1回5時間からなるコーチングとコンサルテーションに関する2回連続講座を開催し、全研修終了後、独自のアンケート調査を行った。調査内容は、(1) 所属施設、(2) 研修満足度(5件法)、(3) 学習成果(コーチングの理解の深まり(5件法)、コンサルテーションの理解の深まり(5件法)、実践への自信の変化(5件法))、(4) 研修中に経験した学習方法(次回までの実践計画宣言、演習、臨床での実践紹介、グループワーク前の個人の意見整理)の効果の実感(5件法)である。なお、研究者の所属大学の研究倫理審査委員会承認を得た上で、研究目的、匿名性等について文章で説明し同意書を作成して実施した。

【結果】

受講者16名に調査を依頼し13名から回答を得、全てを分析対象とした(有効回答率81.3%)。1. 所属施設について医療施設が多数を占めていた(13名)。2. 研修満足度は「とても満足」9名、「やや満足」4名であった。3. コーチングの理解について「とても深まった」9名、「少し深まった」4名であった。4. コンサルテーションの理解について「とても深まった」1名、「少し深まった」10名、「あまり深まらない」2名であった。5. 実践への自信について「ある程度高まった」3名、「少し高まった」6名、「あまり変わらない」3名などであった。6. 学習方法について「とても効果的」と認識する者の最多項目は「臨床での実践紹介」12名であった。7. 項目間の関連では、研修満足度と実践への自信の変化($r=.653$, $p=.015$)、コンサルテーションの理解の深まり($r=.595$, $p=.032$)、学習活動ではグループワーク前の個人の意見整理($r=.640$, $p=.025$)間に正の有意な相関関係が認められた。

【考察】

研修満足度には、プリセプティとプリセプターの両者の関係性に働きかけるコンサルテーションの理解の向上と実践活用への自信の獲得が鍵となることが示唆された。また理解や自信を高める活動としてグループワーク等を行う際には、事前に個人の意見をまとめる時間を確保してから行うことが効果的であることが示唆された。

正

314) 看護職向けコーチング・コンサルテーション研修の満足度に影響する学習成果と学習活動

遠藤良仁¹，○渡辺幸枝¹，アングアホッフア司寿子¹，
鈴木美代子¹，伊藤 収¹
¹岩手県立大学看護学部

【目的】

看護職による新人看護師等への指導力向上が重要な課題となっている。そこで研究者らは看護職のコーチングおよびコンサルテーション能力の向上を目的とした研修会を開催した。本研究はその研修会の教育成果と学習活動の関連を検討し、効果的な研修会の在り方の示唆を得ることを目的とした。

【方法】

平成28年10月から11月にかけて看護職を対象に1回5時間からなるコーチングとコンサルテーションに関する2回連続講座を開催し、全研修終了後、独自のアンケート調査を行った。調査内容は、(1) 所属施設、(2) 研修満足度(5件法)、(3) 学習成果(コーチングの理解の深まり(5件法)、コンサルテーションの理解の深まり(5件法)、実践への自信の変化(5件法))、(4) 研修中に経験した学習方法(次回までの実践計画宣言、演習、臨床での実践紹介、グループワーク前の個人の意見整理)の効果の実感(5件法)である。なお、研究者の所属大学の研究倫理審査委員会承認を得た上で、研究目的、匿名性等について文章で説明し同意書を作成して実施した。

【結果】

受講者16名に調査を依頼し13名から回答を得、全てを分析対象とした(有効回答率81.3%)。1. 所属施設について医療施設が多数を占めていた(13名)。2. 研修満足度は「とても満足」9名、「やや満足」4名であった。3. コーチングの理解について「とても深まった」9名、「少し深まった」4名であった。4. コンサルテーションの理解について「とても深まった」1名、「少し深まった」10名、「あまり深まらない」2名であった。5. 実践への自信について「ある程度高まった」3名、「少し高まった」6名、「あまり変わらない」3名などであった。6. 学習方法について「とても効果的」と認識する者の最多項目は「臨床での実践紹介」12名であった。7. 項目間の関連では、研修満足度と実践への自信の変化($r=.653$, $p=.015$)、コンサルテーションの理解の深まり($r=.595$, $p=.032$)、学習活動ではグループワーク前の個人の意見整理($r=.640$, $p=.025$)間に正の有意な相関関係が認められた。

【考察】

研修満足度には、プリセプティとプリセプターの両者の関係性に働きかけるコンサルテーションの理解の向上と実践活用への自信の獲得が鍵となることが示唆された。また理解や自信を高める活動としてグループワーク等を行う際には、事前に個人の意見をまとめる時間を確保してから行うことが効果的であることが示唆された。